

公益財団法人 山口育英奨学会

事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

1 当法人の現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその実績

(単位:千円)

事業別	予算額	決算額	実施割合
育英奨学事業	77,273	72,260	93.51%
学術研究等助成事業	27,310	26,137	95.70%
資料館庭園運営管理事業	33,646	36,709	109.10%

(2) 直前3事業年度の財産および状況

(単位:千円)

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度 (当該事業年度)
経常収益	161,169	168,001	172,372	181,209
評価損益等調整前 当期経常増減額	10,605	13,331	18,887	17,767
当期経常増減額	△139,121	3,507	1,284,522	125,758
正味財産期末残高	4,153,095	4,172,170	5,477,229	5,641,758

(3) 主要な事業内容

事業	主要な事業の内容
①育英奨学事業	学生に対し奨学金の無利子貸与 学生集会を開催し学生の指導育成と相互交流
②学術研究等助成事業	大学等における学術の研究者に対して助成金を給付 自然環境保護活動を実施する団体に対しての助成金給付 当会の事業目的に合致する公益事業活動をする団体への助成
③資料館庭園運営管理事業	郷土資料館の運営および一般公開 庭園・山林・遊歩道の整備と自然環境保全活動

(4) 従たる事務所の状況

名 称	所在地	事業内容
東京事務所	東京都 品川区大崎	首都圏の大学等への当会事業の周知 公益事業活動の助成対象団体の情報収集 金融情報収集

(5) 重要な契約に関する事項

契約年月日 (契約期間)	相手方	契約金額	契約の概要
令和6年4月1日 (5年間)	EY 税理士法人	1年間 1,320,000円	定期提出書類の作成支援および 会計等に関する相談業務

(6) 事務局に関する事項

職名等	氏 名	就職年月日	担当事務
事務局長	原 久晴	昭和 61. 4. 7	事務局総轄
事業部長	荒井 能弘	平成 22. 9. 1	本部事務・会計・資料館管理
事業課長	中沢 高則	令和 2. 11. 1	奨学金・研究助成金・庭園管理
一般事務	山口 広美	平成 13. 2. 20	建物内管理・事務所庶務

(7) 役員会等に関する事項

① 理事会

開催年月日	議事事項	会議の結果
令和 6. 5. 30	令和 5 年度事業報告・計算書類等承認について	可決
〃	第 13 回定時評議員会招集および提出議案について	可決
〃	令和 6 年度新規採用奨学生選考について	可決
〃	令和 6 年度学術研究助成について	可決
〃	令和 6 年度自然環境保護活動助成について	可決
〃	理事長および常務理事の職務執行状況の報告	了承
令和 7. 3. 21	令和 6 年度学術研究助成(その他助成)について	可決
〃	令和 7 年度事業計画の承認について	可決
〃	令和 7 年度予算の承認について	可決
〃	「建物立替建設積立資金規程(本部建物)」について	可決
〃	理事長および常務理事の職務執行状況の報告	了承

② 評議員会

開催年月日	議事事項	会議の結果
令和 6. 6. 20	令和 5 年度事業報告の内容報告について	了承
〃	令和 5 年度の計算書類の承認について	可決
〃	理事 1 名の選任について(新任)	可決

(8) 株式の保有状況

企業名	保有株式数	保有割合	企業との関係
ENEOS ホールディングス(株)	3,950,000 株	0.13204%	取引なし
北越メタル(株)	55,600 株	1.39208%	取引なし
住友商事(株)	35,000 株	0.00288%	取引なし
(株)三菱 UFJ ファイナシャルグループ	10,000 株	0.00008%	取引なし
武田薬品工業(株)	5,000 株	0.00031%	取引なし

2 役員等に関する事項

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等	備考
理事長	山口敬太郎	2年	常勤	規程による	
常務理事	原久晴	2年	〃	〃	事務局長
理事	森地茂	2年	非常勤	〃	
〃	若杉敬明	2年	〃	〃	
〃	一色誠一	2年	〃	〃	
〃	田波耕治	2年	〃	〃	
〃	大田弘子	2年	〃	〃	令和6年6月20日就任

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等	備考
監事	高橋實	2年	非常勤	規程による	
〃	西尾進路	2年	〃	〃	
〃	大田勝幸	2年	〃	〃	

(3) 評議員

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等	備考
評議員	福壽道夫	4年	〃	〃	
〃	山崎正	4年	〃	〃	
〃	高橋讓	4年	〃	〃	
〃	青柳隆広	4年	〃	〃	
〃	田中聡一郎	4年	〃	〃	
〃	山口謙太郎	4年	〃	〃	
〃	小澤俊朗	4年	〃	〃	令和6年6月20日就任
〃	池田勉	4年	〃	〃	令和6年6月20日就任

(4) 役員等の報酬

区分	人数	報酬等の総額	備考
理事	7名	20,789千円	
監事	3	222	
評議員	8	378	
合計	18	21,389	

事業報告の附属明細書

I 事業に関する記載事項

1 育英奨学事業について

(1) 奨学金貸与者数および貸与額

区 分	継 続 奨学生	新採用 奨学生	貸与者 合計(名)	奨学金貸与額 (千円)	奨学金返還免除額 (千円)
大学院生	3	9	12	6,250	1,050
大学生	60	32	92	54,900	12,300
短大生	0	1	1	600	100
高専生	0	0	0	0	0
留学生	14	3	17	7,450	1,400
合 計	77	45	122	69,200	14,850

(2) 奨学金返還者数および返還額

区 分	貸与奨学金返還者 (名)	返還額 (千円)
大学院生	28	2,983
大学生	162	38,285
短大生	4	545
高専生	1	90
高校生	1	65
留学生	34	6,328
合 計	230	48,286

(3) 学生集会

奨学生の研修指導育成を図るため 学生集会を 8 月 28 日～29 日(1泊2日)に開催した。来賓による講演会と講話、自然環境保全活動の理解を目的とした山林保全作業と当会山林の杉材を利用した箸づくりなどを行った。参加者は 70 名であった。なお、集会に参加した奨学生には 1 か月分の返還免除を行った。

実施内容

1 日目 28 日 (水)	13:00 集合 開会 理事長挨拶、役員紹介、学生自己紹介
	講演会 演題 「加速的变化をする世界に向かって～核兵器と世界～」 小澤 俊朗 氏 (元外務省 在ウィーン国際機関日本政府代表部特命全権大使)
	講話 「企業の人事担当者から見た就職活動について」 宮崎 仁志 氏 (ENEOS 株式会社 人事部)
	元奨学生の体験談 「社会に出てから 10 年で『はたらく』に感じること」 鬼木 英貴 さん
2 日目 29 日 (木)	山林保全作業 (植林地の下草刈り、間伐の体験)
	当会山林の杉材を利用した箸づくり
	郷土資料館・庭園の見学
	元奨学生との懇談
	16:30 閉会 JR 長岡駅へ移動、解散

(4) その他

機関誌「山びこ」57 号を刊行し、奨学生および元奨学生に配布した。

2 学術研究等助成事業について

(1) 学術研究助成

指定校から推薦された次の研究に対して、各 800,000 円を上限とし、総額 14,285,550 円の助成金を交付した。

- ① 信州大学 農学部 准教授 三谷 壘一
研究題目 β 酸化の活性化に着目した異所性脂肪の分解促進化合物についての研究
- ② 信州大学 学術研究院 理工学域理学系 助教 坂本 勇貴
研究題目 植物細胞核を力学的に支える核膜裏打ちタンパク質の解析
- ③ 長岡工業高等専門学校 助教 蔦 将哉
研究題目 次世代暖白色 LED を実現するための新規白色蛍光体の開発

- ④ 長岡工業高等専門学校 物質工学科 助教 小野塚 洸太
研究題目 多糖類の加水分解を目的としたスルホン化 CNTs 触媒の開発
- ⑤ 新潟大学 大学院医歯学総合研究科 准教授 吉松 康裕
研究題目 脈管炎症を介した炎症性疾患の重症化機序の解明
- ⑥ 山形大学 学術研究院（理学部主担当） 准教授 渡邊 康紀
研究題目 オートファジー最終ステップであるオートファゴソーム内膜分解機構の解明
- ⑦ 秋田大学 大学院理工学研究科 准教授 肖 英紀
研究題目 次世代パワーモジュール用耐熱接合材料のための Cu-Sn 合金の基礎物性の解明
- ⑧ 東京大学 大学院農学生命科学研究科 准教授 宮沢 佳恵
研究題目 糸状菌を利用した自然災害に強く豊かな里山づくりの検証
- ⑨ 東京大学 地震研究所 助教 臼井 嘉哉
研究題目 ロバスト多変量線形回帰を用いた MT 法データ解析手法の開発と北関東 MT 観測データへの適用
- ⑩ 東京大学 大学院農学生命科学研究科 准教授 阪井 裕太郎
研究題目 鮮度表示によって魚食拡大は可能かー報酬付き実験による検証ー
- ⑪ 新潟大学 工学部 建築学プログラム 准教授 棒田 恵
研究題目 生成 AI を活用した対話型建築設計の効果と課題に関する研究
- ⑫ 新潟大学 自然科学系工学部 助教 渡邊 美寿貴
研究題目 Mn^{5+} を発色源とする高彩度な新規緑色顔料の合成
- ⑬ 新潟大学 工学部 准教授 齊藤 健二
研究題目 遷移金属を用いた軽質炭酸カルシウムの濃色化とソーラー蒸留システムへの応用
- ⑭ 東北大学 大学院農学研究科 助教 濱本 亨
研究題目 黒ボク土壌におけるリン利用性が微生物の炭素利用効率に与える影響の解明

- ⑮ 東北大学 大学院薬学研究科 助教 山越 博幸
研究題目 インシリコ解析を活用した構造最適化に基づく BRD4 分解誘導剤 TKPs の開発
- ⑯ 長岡技術科学大学 物質生物系 准教授 山本 麻希
研究題目 新潟県の中越地域におけるノジコの採餌生態に関する研究
- ⑰ 長岡技術科学大学 量子原子力系 准教授 太田 朋子
研究題目 シビアアクシデントに備えた長岡地下水の活用基準に関する原子力防災研究
- ⑱ 富山大学 学術研究部 工学系 助教 岡田 卓哉
研究題目 AI 創薬を基盤とした新規セリンラセマーゼ阻害剤の創製とアルツハイマー病治療薬への応用

(2) 自然環境保護活動助成

自然環境保護活動に取り組む団体に対して、各 500,000 円を上限とし、総額 4,863,212 円の助成金を交付した。

① もみじ園を育てる会

活動名 もみじ園周辺の整備

② チーム・おぐに

活動名 越後カントリートレイル コース保全活動

③ 昆虫はかせネットワーク

活動名 地域で昆虫標本をまもるための昆虫標本教室と標本の重要性を伝えるシンポジウムの開催

④ 森林インストラクターと市民有志

活動名 自然観察林杉林の針広混交林化を目指す講習会

⑤ 特定非営利活動法人 新潟の科学・自然探偵団

活動名 子ども達や高齢者などを対象とした身近な自然環境と科学技術理解推進活動
(自然と科学に対する「わくわく」「ドキドキ」「なぜなぜ?」体験)

- ⑥ 長岡市立小国小学校
活動名 小国の自然再発見 ～わたしたちにとって自然とは～

- ⑦ 一般社団法人 ながおか自然エネルギー
活動名 「自然の恵みをムダにしない命の循環」講演と「生ごみリサイクル土づくり」授業

- ⑧ 長岡クリーンクラブ
活動名 長岡クリーンクラブ

- ⑨ 柏崎動植物調査グループ
活動名 米山周辺の自然調査

- ⑩ 片貝野鳥クラブ
活動名 定例探鳥会

- ⑪ 西山の自然を豊かにする会
活動名 在来希少種の保護活動と外来種対策

- ⑫ 新潟県立海洋高等学校 海洋生物研究部
活動名 上越・妙高市におけるキタノメダカの分布調査と観賞魚メダカの交雑状況

- ⑬ NPO 法人 新潟ワイルドライフリサーチ
活動名 アライグマに警戒！市民参加型の地域安全・生態系保全プロジェクト

- ⑭ **ECO village SHELTER project**
活動名 暮らしが息づく持続可能な里山保全～資源を活用した森の中のエコビレッジ
づくり

(3) その他助成

学術研究等助成事業の「その他助成」として総額 5,200,000 円の助成金を交付した。

- ① 公益社団法人 日本女子プロ将棋協会
- ② 公益財団法人 日本ユースリーダー協会
- ③ 公益財団法人 日本ナショナルトラスト
- ④ 学校法人 国際大学 (IUJ)
- ⑤ 東京大学旅行研究会(設立 70 周年記念誌)
- ⑥ 地域間文化交流による人材育成プロジェクト実行委員会
- ⑦ チーム・小国
- ⑧ ながおか技術教育支援機構

(4) 自然環境保護活動助成報告会の開催

10 月に「自然環境保護活動助成報告会」を開催し、令和 4, 5 年度に助成金を交付した 29 団体のうち 4 団体から活動の成果についての報告をうけた。

3 資料館庭園運営管理事業について

- (1) 当会の資料館および庭園・山林と遊歩道を4月下旬から11月下旬まで一般公開し見学者を受け入れた。ガイド3名を交替で配置し案内や解説を行って見学者の便に供している。見学者は年間1,200名であった。
- (2) 当会所有の庭園および山林の遊歩道を散策しながら、植物、野鳥、きのこなどを観察する会を春秋4回開催した。植物に関する専門家、長岡野鳥の会、長岡きのこ同好会の協力を得て実施し合計113名の参加者があった。
- (3) 庭園の隣地に新たに見学者用の駐車場を追加して市道からの乗り入れをやすくした。
- (4) 「雪国くらし館」の植物標本棚を木製で閲覧しやすいものに作り直した。
- (5) 地域の活性化に資する活動として「山びこ館」で音楽会を開催した。出演者は元奨学生と地元出身の音楽活動家と県内で活躍している外国人ギタリストで、50名の来場者が音楽を楽しんだ。
- (6) 日本の伝統文化である将棋の普及を図る活動として、日本女子プロ将棋協会と日本将棋連盟長岡支部の協力を得て将棋大会を開催した。13名の参加があり、プロ棋士による指導対局および参加者のトーナメント戦を行った。
- (7) 山口庭園の魅力発信のための写真コンテストを実施し11名の応募者があり、審査のうえ入賞者に対して表彰式を行った。
- (8) 広報活動の一環として、学生集会・庭園山林での観察会などイベント開催の折、地元テレビ局に取材依頼しテレビ配信した。